研究情報　徳島県が育成した香酸カンキツ‘阿波すず香’

【はじめに】

徳島県特産のスダチやユズは，香りや酸味は好評であるが，種子数が多く，無核または少核の新しい香酸カンキツの育成が望まれていた。カンキツの無核化手法として三倍体作出は有効な手段の一つで，二倍体と四倍体との交雑により得られる完全種子から作出する方法が報告されてる。旧徳島県果樹研究所（現徳島県立農林水産総合技術支援センター）および農産園芸研究課では，この方法により 1991 年から 3 倍体香酸カンキツの育種に取り組み，2004 年に 3 倍体無核スダチ‘徳島 3 × 1 号’の品種登録を行っている（図 1)。今回新しい無核香酸カンキツ‘阿波すず香’を作出し，2015 年 3 月に品種登録出願を行ったので，その特性について報告する。

図1　‘阿波すず香’の果皮，その断面写真
※上板5号は‘阿波すず香’の系統名

【育成経過】

1992 年に本田系スダチの四倍体を種子親とし，山根系ユズ（二倍体）の花粉を交配した。得られた種子は MT 培地で胚培養を行い，カラタチに割接ぎした。その際，押しつぶし法とフローサイトメーターで染色体数を確認し，三倍体を選出した。三倍体苗木は順化室等で育成したのち，ビニールハウス内でポット栽培し，ほ場に定植した。それらの中から 1997 年に初結実し，種子が少なく多汁で，スダチとユズの中間的な独特な香りを有する個体（系統名：上板 5 号）を一次選抜した。さらに，原木の複製樹を育成し，ほ場および現地での系統適応性検定試験の結果，果実品質は優れ，食味調査で高い評価が得られたことから二次選抜し，‘阿波すず香’と命名して，2015 年 3 月に品種登録出願を行った。

【特性の概要】

2010 年に現地試験ほ場のスダチ樹に上板 5 号を高接ぎし，2013 年～ 2014 年の 2 年間調査した。

特性調査は，種苗法に基づく品種登録のための香酸カンキツ類審査基準に従って行った。

●樹の特性

樹姿はやや開張性で，樹勢は中である。枝梢の長さは中で，枝梢に発生するトゲの長さはスダチ程度である。隔年結果はやや低で，後期落果（収穫前落果）は年によって見られた。

●果実特性

果実の大きさはスダチとユズの中間で，種子数は無から少であるが，周辺にカンキツ類が植栽されていると多くなる。スダチとユズの中間的な独特な香りを有し，糖度およびクエン酸含量はスダチより低くユズより高い。果皮はスダチのように硬く，着色するとさらに堅く締まる。スダチやユズに比べ店持ちおよび貯蔵性は高く，着色するとさらに高まる。

表 1　‘阿波すず香’とスダチおよびユズの果実特性

品　種	収穫日	縦径（mm）	横径（mm）	果実重（g）
阿波すず香	2013年10月11日	42.7	51.3	59.3
スダチ（本田）	2013年9月17日	32.4	39.0	27.8
ユ　ズ（山根）	2013年10月17日	55.2	64.7	114.6

品　種	収穫日	完全種子数	糖度（Brix.）	クエン酸（%）
阿波すず香	2013年10月11日	1.9	8.3	5.5
スダチ（本田）	2013年9月17日	7.4	10.1	6.8
ユズ（山根）	2013年10月17日	35.1	8.4	5.3

【おわりに】

‘阿波すず香’の特徴である店持ちや貯蔵性を活かした販売戦略や販路開拓を行えば，スダチ，ユズ，ユコウに次ぐ香酸カンキツにもなり得ると考えられる。このため，販路開拓を技術面からサポートする予定である。

（農産園芸研究課　果樹担当　中島　光廣）